学校の適正規模、適正配置について

１６年度　校長会検討資料（抜粋）

１、学級数が適正規模であることによって期待できる教育的効果

２、小規模校の課題

１、学級数が適正規模であることによって期待できる教育的効果

（１）教育活動上から

①　学級のかべを超えた合同授業や交換授業、学年たてわり授業など多様な授業方法が可能である。そのことにより、他学級の児童から刺激を受け、学習活動の改善が期待できる。

②　運動会などの体育行事や文化活動などでクラス対抗競争を取り入れることが可能となり、よい意味での競争意識を醸成させることができる。

③　学級の人数が適切であると、教科学習の中で、児童の考えや思いが多様に出され、他の児童の思考に刺激を与え、深まりのある授業展開が可能となる。

④　道徳指導においても、教科指導と同様な効果が期待できる。特に、学年２学級以上であると、学級、学年というレベルで協力し合う意識を育むことができる。

⑤　児童会活動やクラブ活動の推進にあたり、人選、活動などにおいて、その活性化が期待できる。

⑥総合的な学習においても教科指導などと同様な効果が期待できる。

（２）生徒指導上から

①　学年が複数学級であると、クラス替えが可能となり、単級に見られがちである固定的な人間関係や各種の役割の固定化から脱却できる。このことにより、児童一人一入の興味関心に応じた活動が可能となり、その結果、多様な価値観を習得することになる。そのことが、児童の学習、生活両面にわたる意欲を高めることにつながる。

②　学級の編成人数が適切であると、児童同士のふれあいや切磋琢磨の機会が増えることになり、児童のよさや可能性、個性を醸成することになる。

（３）学校運営上から

①　教員数の適正配置によって、「学年担任打ち合わせ会議」や「校務分掌担当者会議」の充実と活性化が期待できる。また、組織面でもスタッフ制を生かすことにより、教職員一入一入の自覚と責任を持たすことにつながる。

②　学年の児童を複眼的に見ることができ、児童一人一人のよさに可能性を見出すことにつながる。

③　教職員数が適切であると校務分掌上の事務負担の軽減につながり、その分、教育活動に専念できる機会が増え、教育効果が期待できる，

④　教職員のメンタルヘルスにつながる。

（４）ＰＴＡ活動上から

①　ＰＴＡを構成する会員数が増えるため、役員、委員構成が適切になり、委員会活動などの活性化が可能となる。

②　ＰＴＡ会員の増加により、会員同士の交流や機会の場が広がり、活動が豊かになる。

③　ＰＴＡ予算の確保が見込まれ、活動の量と質が保障されることにつながる。

（５）校舎の活用状況から

①　特別教室などの清掃区域を低学年に割り振らなくてもよいことになる。

② 余裕教室などが、地域の生涯学習の推進に利用される機会がますます増えることになる。

(5) その他

① 少年団の構成が可能となり活動の活性化が期待できる。

② 修学旅行的行事や卒業アルバム代などの高額な費月を要する負担の軽減が図れることになる。

２、小規模校の課題

① 教育活動から

Ａ）児童の学級内での役割や位置の固定化が生じ、覇気の減退やマンネリ・妥協に陥りやすい。

■児童がそれぞれの学力や運動能力、出番や役割分担などを固定化させてその位置に安住してしまうなど、それ以上に伸びようとする意欲を減退させてしまう。

Ｂ）学級の壁を越えた合同授業や学年縦割りの授業ができないため、異なる集団からの刺激を受ける教育効果が期待できない。

■合同授業や学年縦割りの授業が成立すれば、児童は、他学級児童の学習スタイルやものの見方・考え方、発言発表の仕方や記録（ノート）のとり方などから刺激を受け、自分のその後の学習活動等を改善させることなどに役立たせることができるが、その教育効果が期待できない。

Ｃ）学校対抗意識を刺激することによって得られる、よい意味での競争刺激等による教育効果が期待できない。

■運動会等学校行事や清掃点検、文化活動等で組別対抗競争などを取り入れることができないため、よい意味での、競争意識の刺激による教育効果が期待できない。

Ｄ）同一集団での学級編成が長期になればなるほど、家庭的になる傾向が強くなり教育活動から覇気が奪い取られる可能性が高くなる。

■細やかな配慮が行き届くメリットよりも、緊張感を欠いた家庭的という落とし穴に陥りやすいデメリットのウエイトが大きくなる。反対意見をたたかわせ合うなど、多用な意見等を交流させる機会も減少する。

◎学級の構成人数が少なければ、個別指導が可能になり学力が向上するという相関関係はない。学級の少人数編成と、指導法改善による少人数指導とは質的に異なるものである。

Ｅ）少人数では、多人数の場合と比較して効果的な指導が行えない教育活動がある。

■チーム編成による競技や、合唱・合奏時の活性化が期待できない。

Ｆ）児童会活動やクラブ活動が沈滞する。

■児童会活動では学級代表制などの組織的な活動ができない、クラブ活動では児童数や指導教員数の関係からクラブの数が限定されてしまうなど、それぞれの活動の活性化が阻害される。

②生徒指導上から

Ａ）学級編成替えが行えないため、学校を卒業するまで同じ人間関係の中で過ごすことになり、人間関係が幅狭いものになる。

■変化のない人間関係は、学級内の上下関係や役割分担などの固定化を生じさせや

すく、結果として遠慮や妥協等距離をおいた表面的な交流を招いて意気や意欲を低下させる。

B）学級の編成人数が少なくなればなるほど、子ども同士の触れ合いや摩擦等の機会が減り、子どもの個性を磨く機会も少なくなる。

■個性は多くの人の中に入って初めて光り輝きを増す。学級・学年編成の人数が少なければ少ないほど自分自身を写す鏡が少なくなるから、豊かな個性を磨く機会を少なくさせる。

■児童の数が少なくなれば児童の遊びの機会も少なくなるから、多くの友だちとふれあうことによって高まり合う貴重な機会が失われる。

③学校運営上から

A）「学年担任打ち合わせ会議」が実施できないため、学年経営が活性化しない。

■「学年担任打ち合わせ会議」は、教職員の学校運営への参画の場であると共に、教員（特に若手）にとっての貴重な研修の場に位置づくものであるが、その機能が発揮できない。

◎１学年が複数学級で構成されれば、若手教員をベテラン教員と組み合わせた学年担任構成が可能になり、若手教員の実践的な指導力を向上させることができる。

B）「校務分掌担当者会議」が、十分に機能し得なくなる。

■教員数が少なくなれば、「部」の構成による組織的な学校運営が成立しにくくなる。一人一係的な校務分掌運営が多くなるため、組織のよさを生かした学校経営ができにくい。

C）学校規模が小さくなればなるほど教職員の数が少なくなるから、教職員の校務分掌上の事務等負担量が増し、教員の本来的な職務である教育活動への支障が生じやすい。

■児童との直接的な教育活動（授業等）以外の学校の校務処理は、一般的には、学校規模に関係なく同程度の内容が要求される。

D）児童数と学校施設のアンバランスが生じ、清掃活動などで児童の負担が多くなる。

■少人数で複数の清掃個所を担当するため指導の目が行き届かないなど、危機管理上の不安も生じている。

E）児童を見る目を複眼化できない。

■児童の評価は、複眼的にみることによって多面的な評価が可能になって、一人一人のよさや可能性をより見いだしやすくする。

④学校の予算執行上から

A）学年児童数頭割りとなる費用負担の学習において、一人あたりの負担額が大きくなる場合がある。

■修学旅行やフィールドワークのバス代、卒業アルバム代など、高額な費用を要する保護者負担が増大する場合が多い。

⑤ＰＴＡ活動上から

Ａ）ＰＴＡを構成する保護者の数が少なくなるため、ＰＴＡの活動が沈滞したりＰＴＡの組織編成が困難になる。

■ＰＴＡの活動は保護者の数に関係なく取り組まれるから、保護者の数が少なくなれば、役員のなり手や委員会への所属の機会が増える等、保護者の負担が大きくなる。

■近年多く指摘される保護者の学校離れは、「何度も繰り返しＰＴＡの役員・委員になるのが負担である」ことも大きな理由の一つにしている。

■一方、特定の保護者が長期間にわたり役員・委員を独占し、そのことによって人間関係に摩擦を生じさせる場合がある。

■学校によっては、ＰＴＡの組織編成替えを行うなどして委員会等の数を減らすなどの取組が行われている。

Ｂ）ＰＴＡ会員が少なくなれば、会員同士の交流の機会や場が限定され、活動や考え方のマンネリ化を生じやすい。

■ＰＴＡは、職業・年齢・趣味・宗教・政治等々を違えながら、「子ども」を共通条件に集う他の組織にはない「よさ」を有する団体であるが、そのよさが半減する。

Ｃ）会員が少なくなれば予算か縮小するため、ＰＴＡ活動が制約される。

⑥その他

Ａ）学校単独でチーム構成しているスポーツ少年団に組織化がしづらい状況が生じ存続問題が検討されている少年団が出はじめている。